【総括表】

用途	交流館

1　対象施設

本個別施設計画での対象施設は、次に示す施設とする。

	施設名	所在地	基本的な方針	摘要
1	逢妻交流館	田町	現状維持	
2	旭交流館	小渡町	現状維持	
3	朝日丘交流館	御幸町	大規模修繕	
4	足助交流館	足助町	現状維持	
5	石野交流館・出張所	力石町	現状維持	
6	稲武交流館	稲武町	現状維持	
7	梅坪台交流館	梅坪町	大規模修繕	
8	小原交流館	永太郎町	大規模修繕	
9	猿投北交流館	加納町	大規模修繕	
10	猿投台交流館	青木町	大規模修繕	
11	下山交流館	大沼町	現状維持	
12	浄水交流館	大清水町	現状維持	
13	末野原交流館	豊栄町	大規模修繕	
14	崇化館交流館	昭和町	大規模修繕	
15	高橋交流館	高橋町	大規模修繕	
16	藤岡交流館	藤岡飯野町	現状維持	
17	藤岡南交流館	西中山町	現状維持	
18	豊南交流館	水源町	大規模修繕	
19	保見交流館・出張所	保見町	現状維持	
20	前林交流館	前林町	現状維持	
21	益富交流館	志賀町	大規模修繕	
22	美里交流館	美里	大規模修繕	
23	美里交流館駐車場	美里	現状維持	
24	竜神交流館	竜神町	大規模修繕	
25	若園交流館	花園町	施設更新・複合化	若園中学校技術科棟と合築予定
26	若林交流館	若林東町	大規模修繕	

※井郷、上郷、松平交流館はコミュニティセンターの総括表に含まれる。

2　計画期間

2021 年度から 2026 年度までの 6 年間とする。

3　目標使用年数

目標使用年数は 57 年以上とする。ただし、他施設との合築・複合化・機能集約の必要が生じた場合は、総合的に判断する。

4　対策の優先順位の考え方

交流館は、地域の拠点施設として、地域住民、地域団体、企業等の事業者などと互いにコミュニケーションをとりながら、あらゆる世代が地域に愛着を持ち、それぞれの持てる力を生かしあって活躍する「自立した地域社会の実現」を目指す施設である。その中で、「原則、1 中学校区 1 交流館」の設置としている。

築 30 年以上の「藤岡南、稲武、足助、小原、旭、下山、猿投台、井郷、梅坪台、松平、崇化館、益富、末野原、上郷交流館」があり、施設の築年数、劣化状況、利用状況等から、必要な対策や実施時期を総合的に判断する。また、支所併設交流館については、支所の修繕時期と合わせることで効率化を図る。

【個別表】

1	施設名	逢妻交流館

1　施設の概要　（2019 年 3 月 31 日時点）

所在地	田町	延床面積	1,494.09 ㎡

建築物棟別

棟別名称	構造	建築年度	延床面積（㎡）	階数	備考
―	S 造（一部 RC 造）	2010	1,494.09	3 階	

2　個別施設の状態等

施設の劣化・損傷の状況や要因、過去の対応状況等
逢妻交流館は平成２２年に新築移転し、築年数が浅く建築後１０年程度の施設であるものの、一部に屋根・外壁等からの漏水が見られる。

3　対策内容と実施時期

（１）基本的な考え方
①安全・安心な施設管理、②トータルコストの縮減、③施設の有効活用の促進の３つを柱とした取組を総合的に推進し、将来の施設更新や維持管理に係るトータルコストの縮減・平準化を図る。
（２）取組方針
以下、取組として該当する項目にチェックを入れ、具体的な内容を明記する。
☑：１）点検の実施、施設の修繕・更新による安全性の確保
各種点検（日常点検、保守点検、法定点検等）の観察により、施設の劣化状況や修繕の緊急度を把握する。また、部位ごとの保全の考え方（予防保全、事後保全）、部位ごとの耐用年数に基づき、費用対効果を踏まえた上で修繕を実施することにより安全性を確保する。
☑：２）施設更新に伴う複合化・集約化、余剰空間の用途転用等による活用促進
今後の人口減少や少子高齢化の進展等による施設利用者の減少や利用ニーズの変化に対応していくため、必要に応じて統合（機能の集約化・複合化）や廃止を行い、総量抑制の取組みに努める。
☑：３）民間活力の導入による事業推進や運営改善

（現在の導入状況）
指定管理者業務の導入による運営品質の向上、コストの縮減を図っている。

（今後の考え）
引続き指定管理者業務の推進を行いコストの縮減を図っていく。

☑：４）施設の機能向上による利便性向上や、ランニングコストの縮減

設備の更新にあたっては、費用対効果を考慮した上で、既存設備よりもメンテナンス頻度の少ない設備やエネルギー消費量の少ない設備に更新を検討し、初期費用（イニシャルコスト）だけでなく維持管理等費用（ランニングコスト）を含めた総合的な費用であるライフサイクルコストの低減に努める。

（３）その他、対策を実施する際に考慮すべき事項

４　対策内容（計画期間内の保全、機能向上、建替え・増築 等）

※「年次計画表一覧」を参照。

【個別表】

2	施設名	旭交流館

1　施設の概要　（2019 年 3 月 31 日時点）

所在地	小渡町	延床面積	1,409.79 ㎡

建築物棟別

棟別名称	構造	建築年度	延床面積（㎡）	階数	備考
本館	RC 造	1974	987.13	3 階	
別館	RC 造	1986	422.66	1 階	

2　個別施設の状態等

施設の劣化・損傷の状況や要因、過去の対応状況等
<本館>　建築後４０年以上経過しており、ひび割れ等の経年による劣化現象がみられるが、屋上外壁について目視上は概ね健全な状態である。 <別館>　建築後３０年程度経過しており、ひび割れ等の経年による劣化現象がみられるが、屋上外壁について目視上は概ね健全な状態である。 <共通>　本館、別館共に建物の半分が土砂災害警戒区域内に立地していることで、警報発令時等には市民を滞在させることができないため、目標使用年数（２０３１年）以降の施設計画は移転も含めた見直しを要する。

3　対策内容と実施時期

（１）基本的な考え方
①安全・安心な施設管理、②トータルコストの縮減、③施設の有効活用の促進の３つを柱とした取組を総合的に推進し、将来の施設更新や維持管理に係るトータルコストの縮減・平準化を図る。
（２）取組方針
以下、取組として該当する項目にチェックを入れ、具体的な内容を明記する。
☑：１）点検の実施、施設の修繕・更新による安全性の確保
各種点検（日常点検、保守点検、法定点検等）の観察により、施設の劣化状況や修繕の緊急度を把握する。また、部位ごとの保全の考え方（予防保全、事後保全）、部位ごとの耐用年数に基づき、費用対効果を踏まえた上で修繕を実施することにより安全性を確保する。
☑：２）施設更新に伴う複合化・集約化、余剰空間の用途転用等による活用促進
今後の人口減少や少子高齢化の進展等による施設利用者の減少や利用ニーズの変化に対応していくため、必要に応じて統合（機能の集約化・複合化）や廃止を行い、総量抑制の取組みに努める。

☑：３）民間活力の導入による事業推進や運営改善

（現在の導入状況）
指定管理者業務の導入による運営品質の向上、コストの縮減を図っている。

（今後の考え）
引続き指定管理者業務の推進を行いコストの縮減を図っていく。

☑：４）施設の機能向上による利便性向上や、ランニングコストの縮減

設備の更新にあたっては、費用対効果を考慮した上で、既存設備よりもメンテナンス頻度の少ない設備やエネルギー消費量の少ない設備に更新を検討し、初期費用（イニシャルコスト）だけでなく維持管理等費用（ランニングコスト）を含めた総合的な費用であるライフサイクルコストの低減に努める。

（３）その他、対策を実施する際に考慮すべき事項

４　対策内容（計画期間内の保全、機能向上、建替え・増築 等）

※「年次計画表一覧」を参照。

【個別表】

3	施設名	朝日丘交流館

1　施設の概要　（2019 年 3 月 31 日時点）

所在地	御幸町	延床面積	1,499.99 ㎡

建築物棟別

棟別名称	構造	建築年度	延床面積（㎡）	階数	備考
―	RC 造（一部 S 造）	2005 年	1,499.99	2 階	

2　個別施設の状態等

施設の劣化・損傷の状況や要因、過去の対応状況等
朝日丘交流館は建築後１５年程度の施設であり、ひび割れ等の経年による劣化現象がみられるが、屋上外壁について目視上は概ね健全な状態である。

3　対策内容と実施時期

（１）基本的な考え方
①安全・安心な施設管理、②トータルコストの縮減、③施設の有効活用の促進の３つを柱とした取組を総合的に推進し、将来の施設更新や維持管理に係るトータルコストの縮減・平準化を図る。
（２）取組方針
以下、取組として該当する項目にチェックを入れ、具体的な内容を明記する。
☑：１）点検の実施、施設の修繕・更新による安全性の確保
各種点検（日常点検、保守点検、法定点検等）の観察により、施設の劣化状況や修繕の緊急度を把握する。また、部位ごとの保全の考え方（予防保全、事後保全）、部位ごとの耐用年数に基づき、費用対効果を踏まえた上で修繕を実施することにより安全性を確保する。
☑：２）施設更新に伴う複合化・集約化、余剰空間の用途転用等による活用促進
今後の人口減少や少子高齢化の進展等による施設利用者の減少や利用ニーズの変化に対応していくため、必要に応じて統合（機能の集約化・複合化）や廃止を行い、総量抑制の取組みに努める。
☑：３）民間活力の導入による事業推進や運営改善

（現在の導入状況）
指定管理者業務の導入による運営品質の向上、コストの縮減を図っている。

（今後の考え）
引続き指定管理者業務の推進を行いコストの縮減を図っていく。

☑：４）施設の機能向上による利便性向上や、ランニングコストの縮減

設備の更新にあたっては、費用対効果を考慮した上で、既存設備よりもメンテナンス頻度の少ない設備やエネルギー消費量の少ない設備に更新を検討し、初期費用（イニシャルコスト）だけでなく維持管理等費用（ランニングコスト）を含めた総合的な費用であるライフサイクルコストの低減に努める。

（３）その他、対策を実施する際に考慮すべき事項

４　対策内容（計画期間内の保全、機能向上、建替え・増築 等）

※「年次計画表一覧」を参照。

【個別表】

4	施設名	足助交流館

1　施設の概要　（2019 年 3 月 31 日時点）

所在地	足助町	延床面積	2,187.00 ㎡

建築物棟別

棟別名称	構造	建築年度	延床面積（㎡）	階数	備考
―	RC 造	1985	2,187.00	3 階	

2　個別施設の状態等

施設の劣化・損傷の状況や要因、過去の対応状況等
足助交流館は建築後３５年程度経過しており、ひび割れや錆等の経年による劣化現象が全体に見られる。屋上外壁について目視上は概ね健全な状態である。

3　対策内容と実施時期

（１）基本的な考え方
①安全・安心な施設管理、②トータルコストの縮減、③施設の有効活用の促進の３つを柱とした取組を総合的に推進し、将来の施設更新や維持管理に係るトータルコストの縮減・平準化を図る。
（２）取組方針
以下、取組として該当する項目にチェックを入れ、具体的な内容を明記する。
☑：１）点検の実施、施設の修繕・更新による安全性の確保
各種点検（日常点検、保守点検、法定点検等）の観察により、施設の劣化状況や修繕の緊急度を把握する。また、部位ごとの保全の考え方（予防保全、事後保全）、部位ごとの耐用年数に基づき、費用対効果を踏まえた上で修繕を実施することにより安全性を確保する。
☑：２）施設更新に伴う複合化・集約化、余剰空間の用途転用等による活用促進
今後の人口減少や少子高齢化の進展等による施設利用者の減少や利用ニーズの変化に対応していくため、必要に応じて統合（機能の集約化・複合化）や廃止を行い、総量抑制の取組みに努める。
☑：３）民間活力の導入による事業推進や運営改善

（現在の導入状況）
指定管理者業務の導入による運営品質の向上、コストの縮減を図っている。

（今後の考え）
引続き指定管理者業務の推進を行いコストの縮減を図っていく。

☑：４）施設の機能向上による利便性向上や、ランニングコストの縮減

設備の更新にあたっては、費用対効果を考慮した上で、既存設備よりもメンテナンス頻度の少ない設備やエネルギー消費量の少ない設備に更新を検討し、初期費用（イニシャルコスト）だけでなく維持管理等費用（ランニングコスト）を含めた総合的な費用であるライフサイクルコストの低減に努める。

（３）その他、対策を実施する際に考慮すべき事項

本計画で策定した個別施設計画は、実施年度の予算状況等により計画内容が見直されるなどの理由により、実施と計画に乖離が発生する可能性がある。そのため、本計画において策定した中長期保全計画等は各年度の実施状況を踏まえ更新していくことが望ましい。

４　対策内容（計画期間内の保全、機能向上、建替え・増築 等）

※「年次計画表一覧」を参照。

【個別表】

5	施設名	石野交流館・出張所

1　施設の概要　（2019 年 3 月 31 日時点）

所在地	力石町	延床面積	1,183.64 ㎡

建築物棟別

棟別名称	構造	建築年度	延床面積（㎡）	階数	備考
―	RC 造	1996	1,183.64	1 階	

2　個別施設の状態等

施設の劣化・損傷の状況や要因、過去の対応状況等
石野交流館は建築後２０年程度経過しており、ひび割れ等の経年による劣化現象がみられるが、屋上外壁について目視上は概ね健全な状態である。

3　対策内容と実施時期

（１）基本的な考え方
①安全・安心な施設管理、②トータルコストの縮減、③施設の有効活用の促進の３つを柱とした取組を総合的に推進し、将来の施設更新や維持管理に係るトータルコストの縮減・平準化を図る。
（２）取組方針
以下、取組として該当する項目にチェックを入れ、具体的な内容を明記する。
☑：１）点検の実施、施設の修繕・更新による安全性の確保
各種点検（日常点検、保守点検、法定点検等）の観察により、施設の劣化状況や修繕の緊急度を把握する。また、部位ごとの保全の考え方（予防保全、事後保全）、部位ごとの耐用年数に基づき、費用対効果を踏まえた上で修繕を実施することにより安全性を確保する。
☑：２）施設更新に伴う複合化・集約化、余剰空間の用途転用等による活用促進
今後の人口減少や少子高齢化の進展等による施設利用者の減少や利用ニーズの変化に対応していくため、必要に応じて統合（機能の集約化・複合化）や廃止を行い、総量抑制の取組みに努める。
☑：３）民間活力の導入による事業推進や運営改善

（現在の導入状況）
指定管理者業務の導入による運営品質の向上、コストの縮減を図っている。

（今後の考え）
引続き指定管理者業務の推進を行いコストの縮減を図っていく。

☑：４）施設の機能向上による利便性向上や、ランニングコストの縮減

設備の更新にあたっては、費用対効果を考慮した上で、既存設備よりもメンテナンス頻度の少ない設備やエネルギー消費量の少ない設備に更新を検討し、初期費用（イニシャルコスト）だけでなく維持管理等費用（ランニングコスト）を含めた総合的な費用であるライフサイクルコストの低減に努める。

（３）その他、対策を実施する際に考慮すべき事項

４　対策内容（計画期間内の保全、機能向上、建替え・増築 等）

※「年次計画表一覧」を参照。

【個別表】

6	施設名	稲武交流館

1　施設の概要　（2019 年 3 月 31 日時点）

所在地	稲武町	延床面積	427.82 ㎡

建築物棟別

棟別名称	構造	建築年度	延床面積（㎡）	階数	備考
―	RC 造	1982	427.82	2 階	

2　個別施設の状態等

施設の劣化・損傷の状況や要因、過去の対応状況等
稲武交流館は建築後４０年程度経過しており、汚れや錆等の経年による劣化現象がみられるが、屋上外壁について目視上は概ね健全な状態である。

3　対策内容と実施時期

（１）基本的な考え方
①安全・安心な施設管理、②トータルコストの縮減、③施設の有効活用の促進の３つを柱とした取組を総合的に推進し、将来の施設更新や維持管理に係るトータルコストの縮減・平準化を図る。
（２）取組方針
以下、取組として該当する項目にチェックを入れ、具体的な内容を明記する。
☑：１）点検の実施、施設の修繕・更新による安全性の確保
各種点検（日常点検、保守点検、法定点検等）の観察により、施設の劣化状況や修繕の緊急度を把握する。また、部位ごとの保全の考え方（予防保全、事後保全）、部位ごとの耐用年数に基づき、費用対効果を踏まえた上で修繕を実施することにより安全性を確保する。
☑：２）施設更新に伴う複合化・集約化、余剰空間の用途転用等による活用促進
今後の人口減少や少子高齢化の進展等による施設利用者の減少や利用ニーズの変化に対応していくため、必要に応じて統合（機能の集約化・複合化）や廃止を行い、総量抑制の取組みに努める。
☑：３）民間活力の導入による事業推進や運営改善

（現在の導入状況）
指定管理者業務の導入による運営品質の向上、コストの縮減を図っている。

（今後の考え）
引続き指定管理者業務の推進を行いコストの縮減を図っていく。

☑：４）施設の機能向上による利便性向上や、ランニングコストの縮減

設備の更新にあたっては、費用対効果を考慮した上で、既存設備よりもメンテナンス頻度の少ない設備やエネルギー消費量の少ない設備に更新を検討し、初期費用（イニシャルコスト）だけでなく維持管理等費用（ランニングコスト）を含めた総合的な費用であるライフサイクルコストの低減に努める。

（３）その他、対策を実施する際に考慮すべき事項

４　対策内容（計画期間内の保全、機能向上、建替え・増築 等）

※「年次計画表一覧」を参照。

【個別表】

7	施設名	梅坪台交流館

1　施設の概要　（2019 年 3 月 31 日時点）

所在地	梅坪町	延床面積	1,182.97 ㎡

建築物棟別

棟別名称	構造	建築年度	延床面積（㎡）	階数	備考
―	RC 造+S 造	1983	1,182.97	2 階	

2　個別施設の状態等

施設の劣化・損傷の状況や要因、過去の対応状況等
梅坪台交流館は建築後３５年程度経過しており、ひび割れ等の経年による劣化現象に加え、壁や天井に漏水跡が所々見られる。屋上外壁について目視上は概ね健全な状態である。

3　対策内容と実施時期

（１）基本的な考え方
①安全・安心な施設管理、②トータルコストの縮減、③施設の有効活用の促進の３つを柱とした取組を総合的に推進し、将来の施設更新や維持管理に係るトータルコストの縮減・平準化を図る。
（２）取組方針
以下、取組として該当する項目にチェックを入れ、具体的な内容を明記する。
☑：１）点検の実施、施設の修繕・更新による安全性の確保
各種点検（日常点検、保守点検、法定点検等）の観察により、施設の劣化状況や修繕の緊急度を把握する。また、部位ごとの保全の考え方（予防保全、事後保全）、部位ごとの耐用年数に基づき、費用対効果を踏まえた上で修繕を実施することにより安全性を確保する。
☑：２）施設更新に伴う複合化・集約化、余剰空間の用途転用等による活用促進
今後の人口減少や少子高齢化の進展等による施設利用者の減少や利用ニーズの変化に対応していくため、必要に応じて統合（機能の集約化・複合化）や廃止を行い、総量抑制の取組みに努める。
☑：３）民間活力の導入による事業推進や運営改善

（現在の導入状況）
指定管理者業務の導入による運営品質の向上、コストの縮減を図っている。

（今後の考え）
引続き指定管理者業務の推進を行いコストの縮減を図っていく。

☑：４）施設の機能向上による利便性向上や、ランニングコストの縮減

設備の更新にあたっては、費用対効果を考慮した上で、既存設備よりもメンテナンス頻度の少ない設備やエネルギー消費量の少ない設備に更新を検討し、初期費用（イニシャルコスト）だけでなく維持管理等費用（ランニングコスト）を含めた総合的な費用であるライフサイクルコストの低減に努める。

（３）その他、対策を実施する際に考慮すべき事項

４　対策内容（計画期間内の保全、機能向上、建替え・増築 等）

※「年次計画表一覧」を参照。

【個別表】

8	施設名	小原交流館

1　施設の概要　（2019 年 3 月 31 日時点）

所在地	永太郎町	延床面積	2,395.00 ㎡

建築物棟別

棟別名称	構造	建築年度	延床面積（㎡）	階数	備考
―	RC 造	1990	2,395.00	2 階	

2　個別施設の状態等

施設の劣化・損傷の状況や要因、過去の対応状況等
小原交流館は建築後３０年程度経過しており、ひび割れや破損等の経年による劣化現象がみられるが、屋上外壁について目視上は概ね健全な状態である。

3　対策内容と実施時期

（１）基本的な考え方
①安全・安心な施設管理、②トータルコストの縮減、③施設の有効活用の促進の３つを柱とした取組を総合的に推進し、将来の施設更新や維持管理に係るトータルコストの縮減・平準化を図る。
（２）取組方針
以下、取組として該当する項目にチェックを入れ、具体的な内容を明記する。
☑：１）点検の実施、施設の修繕・更新による安全性の確保
各種点検（日常点検、保守点検、法定点検等）の観察により、施設の劣化状況や修繕の緊急度を把握する。また、部位ごとの保全の考え方（予防保全、事後保全）、部位ごとの耐用年数に基づき、費用対効果を踏まえた上で修繕を実施することにより安全性を確保する。
☑：２）施設更新に伴う複合化・集約化、余剰空間の用途転用等による活用促進
今後の人口減少や少子高齢化の進展等による施設利用者の減少や利用ニーズの変化に対応していくため、必要に応じて統合（機能の集約化・複合化）や廃止を行い、総量抑制の取組みに努める。
☑：３）民間活力の導入による事業推進や運営改善

（現在の導入状況）
指定管理者業務の導入による運営品質の向上、コストの縮減を図っている。

（今後の考え）
引続き指定管理者業務の推進を行いコストの縮減を図っていく。

☑：４）施設の機能向上による利便性向上や、ランニングコストの縮減

設備の更新にあたっては、費用対効果を考慮した上で、既存設備よりもメンテナンス頻度の少ない設備やエネルギー消費量の少ない設備に更新を検討し、初期費用（イニシャルコスト）だけでなく維持管理等費用（ランニングコスト）を含めた総合的な費用であるライフサイクルコストの低減に努める。

（３）その他、対策を実施する際に考慮すべき事項

４　対策内容（計画期間内の保全、機能向上、建替え・増築 等）

※「年次計画表一覧」を参照。

【個別表】

9	施設名	猿投北交流館

1　施設の概要　（2019 年 3 月 31 日時点）

所在地	加納町	延床面積	978.50 ㎡

建築物棟別

棟別名称	構造	建築年度	延床面積（㎡）	階数	備考
―	RC 造	1993	978.50	2 階	

2　個別施設の状態等

施設の劣化・損傷の状況や要因、過去の対応状況等
猿投北交流館は建築後２５年程度経過しており、ひび割れや汚れ、錆等の経年による劣化現象がみられるが、屋上外壁について目視上は概ね健全な状態である。

3　対策内容と実施時期

（１）基本的な考え方
①安全・安心な施設管理、②トータルコストの縮減、③施設の有効活用の促進の３つを柱とした取組を総合的に推進し、将来の施設更新や維持管理に係るトータルコストの縮減・平準化を図る。
（２）取組方針
以下、取組として該当する項目にチェックを入れ、具体的な内容を明記する。
☑：１）点検の実施、施設の修繕・更新による安全性の確保
各種点検（日常点検、保守点検、法定点検等）の観察により、施設の劣化状況や修繕の緊急度を把握する。また、部位ごとの保全の考え方（予防保全、事後保全）、部位ごとの耐用年数に基づき、費用対効果を踏まえた上で修繕を実施することにより安全性を確保する。
☑：２）施設更新に伴う複合化・集約化、余剰空間の用途転用等による活用促進
今後の人口減少や少子高齢化の進展等による施設利用者の減少や利用ニーズの変化に対応していくため、必要に応じて統合（機能の集約化・複合化）や廃止を行い、総量抑制の取組みに努める。
☑：３）民間活力の導入による事業推進や運営改善

（現在の導入状況）
指定管理者業務の導入による運営品質の向上、コストの縮減を図っている。

（今後の考え）
引続き指定管理者業務の推進を行いコストの縮減を図っていく。

☑：４）施設の機能向上による利便性向上や、ランニングコストの縮減

設備の更新にあたっては、費用対効果を考慮した上で、既存設備よりもメンテナンス頻度の少ない設備やエネルギー消費量の少ない設備に更新を検討し、初期費用（イニシャルコスト）だけでなく維持管理等費用（ランニングコスト）を含めた総合的な費用であるライフサイクルコストの低減に努める。

（３）その他、対策を実施する際に考慮すべき事項

４　対策内容（計画期間内の保全、機能向上、建替え・増築 等）

※「年次計画表一覧」を参照。

【個別表】

10	施設名	猿投台交流館

1　施設の概要　（2019 年 3 月 31 日時点）

所在地	青木町	延床面積	961.84 ㎡

建築物棟別

棟別名称	構造	建築年度	延床面積（㎡）	階数	備考
―	RC 造	1990	961.84	2 階	

2　個別施設の状態等

施設の劣化・損傷の状況や要因、過去の対応状況等
猿投台交流館は建築後３０年程度経過しており、ひび割れ等の経年による劣化現象がみられるが、屋上外壁について目視上は概ね健全な状態である。

3　対策内容と実施時期

（１）基本的な考え方
①安全・安心な施設管理、②トータルコストの縮減、③施設の有効活用の促進の３つを柱とした取組を総合的に推進し、将来の施設更新や維持管理に係るトータルコストの縮減・平準化を図る。
（２）取組方針
以下、取組として該当する項目にチェックを入れ、具体的な内容を明記する。
☑：１）点検の実施、施設の修繕・更新による安全性の確保
各種点検（日常点検、保守点検、法定点検等）の観察により、施設の劣化状況や修繕の緊急度を把握する。また、部位ごとの保全の考え方（予防保全、事後保全）、部位ごとの耐用年数に基づき、費用対効果を踏まえた上で修繕を実施することにより安全性を確保する。
☑：２）施設更新に伴う複合化・集約化、余剰空間の用途転用等による活用促進
今後の人口減少や少子高齢化の進展等による施設利用者の減少や利用ニーズの変化に対応していくため、必要に応じて統合（機能の集約化・複合化）や廃止を行い、総量抑制の取組みに努める。
☑：３）民間活力の導入による事業推進や運営改善

（現在の導入状況）
指定管理者業務の導入による運営品質の向上、コストの縮減を図っている。

（今後の考え）
引続き指定管理者業務の推進を行いコストの縮減を図っていく。

☑：４）施設の機能向上による利便性向上や、ランニングコストの縮減

設備の更新にあたっては、費用対効果を考慮した上で、既存設備よりもメンテナンス頻度の少ない設備やエネルギー消費量の少ない設備に更新を検討し、初期費用（イニシャルコスト）だけでなく維持管理等費用（ランニングコスト）を含めた総合的な費用であるライフサイクルコストの低減に努める。

（３）その他、対策を実施する際に考慮すべき事項

４　対策内容（計画期間内の保全、機能向上、建替え・増築 等）

※「年次計画表一覧」を参照。

【個別表】

11	施設名	下山交流館

1　施設の概要　（2019 年 3 月 31 日時点）

所在地	大沼町	延床面積	1,235.96 ㎡

建築物棟別

棟別名称	構造	建築年度	延床面積（㎡）	階数	備考
―	RC 造	1988	1,235.96	2 階	

2　個別施設の状態等

施設の劣化・損傷の状況や要因、過去の対応状況等
下山交流館は建築後３０年程度経過しており、ひび割れ等の経年による劣化現象がみられるが、屋上外壁について目視上は概ね健全な状態である。

3　対策内容と実施時期

（１）基本的な考え方
①安全・安心な施設管理、②トータルコストの縮減、③施設の有効活用の促進の３つを柱とした取組を総合的に推進し、将来の施設更新や維持管理に係るトータルコストの縮減・平準化を図る。
（２）取組方針
以下、取組として該当する項目にチェックを入れ、具体的な内容を明記する。
☑：１）点検の実施、施設の修繕・更新による安全性の確保
各種点検（日常点検、保守点検、法定点検等）の観察により、施設の劣化状況や修繕の緊急度を把握する。また、部位ごとの保全の考え方（予防保全、事後保全）、部位ごとの耐用年数に基づき、費用対効果を踏まえた上で修繕を実施することにより安全性を確保する。
☑：２）施設更新に伴う複合化・集約化、余剰空間の用途転用等による活用促進
今後の人口減少や少子高齢化の進展等による施設利用者の減少や利用ニーズの変化に対応していくため、必要に応じて統合（機能の集約化・複合化）や廃止を行い、総量抑制の取組みに努める。
☑：３）民間活力の導入による事業推進や運営改善

（現在の導入状況）
指定管理者業務の導入による運営品質の向上、コストの縮減を図っている。

（今後の考え）
引続き指定管理者業務の推進を行いコストの縮減を図っていく。

☑：４）施設の機能向上による利便性向上や、ランニングコストの縮減

設備の更新にあたっては、費用対効果を考慮した上で、既存設備よりもメンテナンス頻度の少ない設備やエネルギー消費量の少ない設備に更新を検討し、初期費用（イニシャルコスト）だけでなく維持管理等費用（ランニングコスト）を含めた総合的な費用であるライフサイクルコストの低減に努める。

（３）その他、対策を実施する際に考慮すべき事項

４　対策内容（計画期間内の保全、機能向上、建替え・増築 等）

※「年次計画表一覧」を参照。

【個別表】

12	施設名	浄水交流館

1　施設の概要　（2019 年 3 月 31 日時点）

所在地	大清水町	延床面積	2,388.37 ㎡

建築物棟別

棟別名称	構造	建築年度	延床面積（㎡）	階数	備考
―	RC 造	2016	2,388.37	2 階	

2　個別施設の状態等

施設の劣化・損傷の状況や要因、過去の対応状況等
浄水交流館は建築後 3 年程度と築年数が浅く、全体的に健全である。

3　対策内容と実施時期

（1）基本的な考え方
①安全・安心な施設管理、②トータルコストの縮減、③施設の有効活用の促進の 3 つを柱とした取組を総合的に推進し、将来の施設更新や維持管理に係るトータルコストの縮減・平準化を図る。
（2）取組方針
以下、取組として該当する項目にチェックを入れ、具体的な内容を明記する。
☑：1）点検の実施、施設の修繕・更新による安全性の確保
各種点検（日常点検、保守点検、法定点検等）の観察により、施設の劣化状況や修繕の緊急度を把握する。また、部位ごとの保全の考え方（予防保全、事後保全）、部位ごとの耐用年数に基づき、費用対効果を踏まえた上で修繕を実施することにより安全性を確保する。
☑：2）施設更新に伴う複合化・集約化、余剰空間の用途転用等による活用促進
今後の人口減少や少子高齢化の進展等による施設利用者の減少や利用ニーズの変化に対応していくため、必要に応じて統合（機能の集約化・複合化）や廃止を行い、総量抑制の取組みに努める。
☑：3）民間活力の導入による事業推進や運営改善

（現在の導入状況）
指定管理者業務の導入による運営品質の向上、コストの縮減を図っている。

（今後の考え）
引続き指定管理者業務の推進を行いコストの縮減を図っていく。

☑：４）施設の機能向上による利便性向上や、ランニングコストの縮減

設備の更新にあたっては、費用対効果を考慮した上で、既存設備よりもメンテナンス頻度の少ない設備やエネルギー消費量の少ない設備に更新を検討し、初期費用（イニシャルコスト）だけでなく維持管理等費用（ランニングコスト）を含めた総合的な費用であるライフサイクルコストの低減に努める。

（３）その他、対策を実施する際に考慮すべき事項

４　対策内容（計画期間内の保全、機能向上、建替え・増築 等）

※「年次計画表一覧」を参照。

【個別表】

13	施設名	末野原交流館

1　施設の概要　（2019 年 3 月 31 日時点）

所在地	豊栄町	延床面積	1,722.15 ㎡

建築物棟別

棟別名称	構造	建築年度	延床面積（㎡）	階数	備考
―	RC 造	1990	1,722.15	2 階	

2　個別施設の状態等

施設の劣化・損傷の状況や要因、過去の対応状況等
末野原交流館は建築後３０年程度経過しており、ひび割れや錆等の経年による劣化現象がみられるが、屋上外壁について目視上は概ね健全な状態である。

3　対策内容と実施時期

（１）基本的な考え方
①安全・安心な施設管理、②トータルコストの縮減、③施設の有効活用の促進の３つを柱とした取組を総合的に推進し、将来の施設更新や維持管理に係るトータルコストの縮減・平準化を図る。
（２）取組方針
以下、取組として該当する項目にチェックを入れ、具体的な内容を明記する。
☑：１）点検の実施、施設の修繕・更新による安全性の確保
各種点検（日常点検、保守点検、法定点検等）の観察により、施設の劣化状況や修繕の緊急度を把握する。また、部位ごとの保全の考え方（予防保全、事後保全）、部位ごとの耐用年数に基づき、費用対効果を踏まえた上で修繕を実施することにより安全性を確保する。
☑：２）施設更新に伴う複合化・集約化、余剰空間の用途転用等による活用促進
今後の人口減少や少子高齢化の進展等による施設利用者の減少や利用ニーズの変化に対応していくため、必要に応じて統合（機能の集約化・複合化）や廃止を行い、総量抑制の取組みに努める。
☑：３）民間活力の導入による事業推進や運営改善

（現在の導入状況）
指定管理者業務の導入による運営品質の向上、コストの縮減を図っている。

（今後の考え）
引続き指定管理者業務の推進を行いコストの縮減を図っていく。

☑：４）施設の機能向上による利便性向上や、ランニングコストの縮減

設備の更新にあたっては、費用対効果を考慮した上で、既存設備よりもメンテナンス頻度の少ない設備やエネルギー消費量の少ない設備に更新を検討し、初期費用（イニシャルコスト）だけでなく維持管理等費用（ランニングコスト）を含めた総合的な費用であるライフサイクルコストの低減に努める。

（３）その他、対策を実施する際に考慮すべき事項

４　対策内容（計画期間内の保全、機能向上、建替え・増築 等）

※「年次計画表一覧」を参照。

【個別表】

14	施設名	崇化館交流館

1　施設の概要　（2019 年 3 月 31 日時点）

所在地	昭和町	延床面積	2,272.63 ㎡

建築物棟別

棟別名称	構造	建築年度	延床面積（㎡）	階数	備考
―	RC 造	1985	2,272.63	5 階	

2　個別施設の状態等

施設の劣化・損傷の状況や要因、過去の対応状況等
崇化館交流館は建築後３０年程度経過しており、ひび割れ等の経年による劣化現象がみられるが、屋上外壁について目視上は概ね健全な状態である。

3　対策内容と実施時期

（１）基本的な考え方
①安全・安心な施設管理、②トータルコストの縮減、③施設の有効活用の促進の３つを柱とした取組を総合的に推進し、将来の施設更新や維持管理に係るトータルコストの縮減・平準化を図る。
（２）取組方針
以下、取組として該当する項目にチェックを入れ、具体的な内容を明記する。
☑：１）点検の実施、施設の修繕・更新による安全性の確保
各種点検（日常点検、保守点検、法定点検等）の観察により、施設の劣化状況や修繕の緊急度を把握する。また、部位ごとの保全の考え方（予防保全、事後保全）、部位ごとの耐用年数に基づき、費用対効果を踏まえた上で修繕を実施することにより安全性を確保する。
☑：２）施設更新に伴う複合化・集約化、余剰空間の用途転用等による活用促進
今後の人口減少や少子高齢化の進展等による施設利用者の減少や利用ニーズの変化に対応していくため、必要に応じて統合（機能の集約化・複合化）や廃止を行い、総量抑制の取組みに努める。
☑：３）民間活力の導入による事業推進や運営改善

（現在の導入状況）
指定管理者業務の導入による運営品質の向上、コストの縮減を図っている。

（今後の考え）
引続き指定管理者業務の推進を行いコストの縮減を図っていく。

☑：４）施設の機能向上による利便性向上や、ランニングコストの縮減

設備の更新にあたっては、費用対効果を考慮した上で、既存設備よりもメンテナンス頻度の少ない設備やエネルギー消費量の少ない設備に更新を検討し、初期費用（イニシャルコスト）だけでなく維持管理等費用（ランニングコスト）を含めた総合的な費用であるライフサイクルコストの低減に努める。

（３）その他、対策を実施する際に考慮すべき事項

４　対策内容（計画期間内の保全、機能向上、建替え・増築 等）

※「年次計画表一覧」を参照。

【個別表】

15	施設名	高橋交流館

1　施設の概要　（2019 年 3 月 31 日時点）

所在地	高橋町	延床面積	1,296.19 ㎡

建築物棟別

棟別名称	構造	建築年度	延床面積（㎡）	階数	備考
―	RC 造	1993	1,296.19	2 階	

2　個別施設の状態等

施設の劣化・損傷の状況や要因、過去の対応状況等
高橋交流館は建築後２５年程度経過しており、ひび割れ等の経年による劣化現象がみられるが、屋上外壁について目視上は概ね健全な状態である。

3　対策内容と実施時期

（１）基本的な考え方
①安全・安心な施設管理、②トータルコストの縮減、③施設の有効活用の促進の３つを柱とした取組を総合的に推進し、将来の施設更新や維持管理に係るトータルコストの縮減・平準化を図る。
（２）取組方針
以下、取組として該当する項目にチェックを入れ、具体的な内容を明記する。
☑：１）点検の実施、施設の修繕・更新による安全性の確保
各種点検（日常点検、保守点検、法定点検等）の観察により、施設の劣化状況や修繕の緊急度を把握する。また、部位ごとの保全の考え方（予防保全、事後保全）、部位ごとの耐用年数に基づき、費用対効果を踏まえた上で修繕を実施することにより安全性を確保する。
☑：２）施設更新に伴う複合化・集約化、余剰空間の用途転用等による活用促進
今後の人口減少や少子高齢化の進展等による施設利用者の減少や利用ニーズの変化に対応していくため、必要に応じて統合（機能の集約化・複合化）や廃止を行い、総量抑制の取組みに努める。
☑：３）民間活力の導入による事業推進や運営改善

（現在の導入状況）
指定管理者業務の導入による運営品質の向上、コストの縮減を図っている。

（今後の考え）
引続き指定管理者業務の推進を行いコストの縮減を図っていく。

☑：４）施設の機能向上による利便性向上や、ランニングコストの縮減

設備の更新にあたっては、費用対効果を考慮した上で、既存設備よりもメンテナンス頻度の少ない設備やエネルギー消費量の少ない設備に更新を検討し、初期費用（イニシャルコスト）だけでなく維持管理等費用（ランニングコスト）を含めた総合的な費用であるライフサイクルコストの低減に努める。

（３）その他、対策を実施する際に考慮すべき事項

４　対策内容（計画期間内の保全、機能向上、建替え・増築 等）

※「年次計画表一覧」を参照。

【個別表】

16	施設名	藤岡交流館

1　施設の概要　（2019 年 3 月 31 日時点）

所在地	藤岡飯野町	延床面積	2,640.57 ㎡

建築物棟別

棟別名称	構造	建築年度	延床面積（㎡）	階数	備考
藤岡交流館	SRC 造	2019	2,640.57	2 階	共用部分 1,118.89 ㎡ 交流館部分 890.43 ㎡
ゴミ保管庫	CB 造	2019	19.84	1 階	

2　個別施設の状態等

施設の劣化・損傷の状況や要因、過去の対応状況等
藤岡交流館、ゴミ保管庫は完成（２０１９年３月）直後のため、全般的に劣化・損傷は認められない。

3　対策内容と実施時期

（１）基本的な考え方
①安全・安心な施設管理、②トータルコストの縮減、③施設の有効活用の促進の３つを柱とした取組を総合的に推進し、将来の施設更新や維持管理に係るトータルコストの縮減・平準化を図る。
（２）取組方針
以下、取組として該当する項目にチェックを入れ、具体的な内容を明記する。
☑：１）点検の実施、施設の修繕・更新による安全性の確保
各種点検（日常点検、保守点検、法定点検等）の観察により、施設の劣化状況や修繕の緊急度を把握する。
□：２）施設更新に伴う複合化・集約化、余剰空間の用途転用等による活用促進
□：３）民間活力の導入による事業推進や運営改善

	☑：４）施設の機能向上による利便性向上や、ランニングコストの縮減
	費用対効果を踏まえた上で、利用者ニーズに応じて必要な改修に努める。
（３）その他、対策を実施する際に考慮すべき事項	

４　対策内容（計画期間内の保全、機能向上、建替え・増築 等）

※「年次計画表一覧」を参照。

【個別表】

17	施設名	藤岡南交流館

1　施設の概要　（2019 年 3 月 31 日時点）

所在地	西中山町	延床面積	983.28 ㎡

建築物棟別

棟別名称	構造	建築年度	延床面積（㎡）	階数	備考
交流館 1	RC 造	1985	983.28	1 階	
交流館 2	RC 造	1985		1 階	
調理室	W 造	1987	33.00	1 階	

2　個別施設の状態等

施設の劣化・損傷の状況や要因、過去の対応状況等
建築後３４年が経過し、経年による老朽化が著しい。外壁面のひび割れや、集会室屋上部からの雨水侵入に当該箇所周辺を含む中規模補修で対応している。令和３年３月ホール部分を増築。

3　対策内容と実施時期

（１）基本的な考え方
①安全・安心な施設管理、②トータルコストの縮減、③施設の有効活用の促進の３つを柱とした取組を総合的に推進し、将来の施設更新や維持管理に係るトータルコストの縮減・平準化を図る。
（２）取組方針
以下、取組として該当する項目にチェックを入れ、具体的な内容を明記する。
☑：１）点検の実施、施設の修繕・更新による安全性の確保
各種点検（日常点検、保守点検、法定点検等）により、施設の劣化状況や修繕の緊急度を把握する。
□：２）施設更新に伴う複合化・集約化、余剰空間の用途転用等による活用促進
☑：３）民間活力の導入による事業推進や運営改善
指定管理者制度を導入して運営改善をしている。

	□：４）施設の機能向上による利便性向上や、ランニングコストの縮減
（３）その他、対策を実施する際に考慮すべき事項	

４　対策内容（計画期間内の保全、機能向上、建替え・増築 等）

※「年次計画表一覧」を参照。

【個別表】

18	施設名	豊南交流館

1　施設の概要　（2019 年 3 月 31 日時点）

所在地	水源町	延床面積	1,799.14 ㎡

建築物棟別

棟別名称	構造	建築年度	延床面積（㎡）	階数	備考
―	RC 造	1994	1,799.14	2 階	

2　個別施設の状態等

施設の劣化・損傷の状況や要因、過去の対応状況等
豊南交流館は建築後２５年程度経過しており、ひび割れや汚れ等の経年による劣化現象がみられるが、屋上外壁について目視上は概ね健全な状態である。

3　対策内容と実施時期

（１）基本的な考え方
①安全・安心な施設管理、②トータルコストの縮減、③施設の有効活用の促進の３つを柱とした取組を総合的に推進し、将来の施設更新や維持管理に係るトータルコストの縮減・平準化を図る。
（２）取組方針
以下、取組として該当する項目にチェックを入れ、具体的な内容を明記する。
☑：１）点検の実施、施設の修繕・更新による安全性の確保
各種点検（日常点検、保守点検、法定点検等）の観察により、施設の劣化状況や修繕の緊急度を把握する。また、部位ごとの保全の考え方（予防保全、事後保全）、部位ごとの耐用年数に基づき、費用対効果を踏まえた上で修繕を実施することにより安全性を確保する。
☑：２）施設更新に伴う複合化・集約化、余剰空間の用途転用等による活用促進
今後の人口減少や少子高齢化の進展等による施設利用者の減少や利用ニーズの変化に対応していくため、必要に応じて統合（機能の集約化・複合化）や廃止を行い、総量抑制の取組みに努める。
☑：３）民間活力の導入による事業推進や運営改善

（現在の導入状況）
指定管理者業務の導入による運営品質の向上、コストの縮減を図っている。

（今後の考え）
引続き指定管理者業務の推進を行いコストの縮減を図っていく。

☑：４）施設の機能向上による利便性向上や、ランニングコストの縮減

設備の更新にあたっては、費用対効果を考慮した上で、既存設備よりもメンテナンス頻度の少ない設備やエネルギー消費量の少ない設備に更新を検討し、初期費用（イニシャルコスト）だけでなく維持管理等費用（ランニングコスト）を含めた総合的な費用であるライフサイクルコストの低減に努める。

（３）その他、対策を実施する際に考慮すべき事項

４　対策内容（計画期間内の保全、機能向上、建替え・増築 等）

※「年次計画表一覧」を参照。

【個別表】

19	施設名	保見交流館・出張所

1　施設の概要　（2019 年 3 月 31 日時点）

所在地	保見町	延床面積	1,799.51 ㎡

建築物棟別

棟別名称	構造	建築年度	延床面積（㎡）	階数	備考
―	RC 造	2007	1,799.51	2 階	

2　個別施設の状態等

施設の劣化・損傷の状況や要因、過去の対応状況等
保見交流館は建築後１５年程度の施設であり、ひび割れや汚れ等の経年による劣化現象がみられる。外壁において一部爆裂がみられるが、屋上外壁について目視上は概ね健全な状態である。

3　対策内容と実施時期

（１）基本的な考え方
①安全・安心な施設管理、②トータルコストの縮減、③施設の有効活用の促進の３つを柱とした取組を総合的に推進し、将来の施設更新や維持管理に係るトータルコストの縮減・平準化を図る。
（２）取組方針
以下、取組として該当する項目にチェックを入れ、具体的な内容を明記する。
☑：１）点検の実施、施設の修繕・更新による安全性の確保
各種点検（日常点検、保守点検、法定点検等）の観察により、施設の劣化状況や修繕の緊急度を把握する。また、部位ごとの保全の考え方（予防保全、事後保全）、部位ごとの耐用年数に基づき、費用対効果を踏まえた上で修繕を実施することにより安全性を確保する。
☑：２）施設更新に伴う複合化・集約化、余剰空間の用途転用等による活用促進
今後の人口減少や少子高齢化の進展等による施設利用者の減少や利用ニーズの変化に対応していくため、必要に応じて統合（機能の集約化・複合化）や廃止を行い、総量抑制の取組みに努める。
☑：３）民間活力の導入による事業推進や運営改善

（現在の導入状況）
指定管理者業務の導入による運営品質の向上、コストの縮減を図っている。

（今後の考え）
引続き指定管理者業務の推進を行いコストの縮減を図っていく。

☑：４）施設の機能向上による利便性向上や、ランニングコストの縮減

設備の更新にあたっては、費用対効果を考慮した上で、既存設備よりもメンテナンス頻度の少ない設備やエネルギー消費量の少ない設備に更新を検討し、初期費用（イニシャルコスト）だけでなく維持管理等費用（ランニングコスト）を含めた総合的な費用であるライフサイクルコストの低減に努める。

（３）その他、対策を実施する際に考慮すべき事項

４　対策内容（計画期間内の保全、機能向上、建替え・増築 等）

※「年次計画表一覧」を参照。

【個別表】

20	施設名	前林交流館

1　施設の概要　（2019 年 3 月 31 日時点）

所在地	前林町	延床面積	1,539.86 ㎡

建築物棟別

棟別名称	構造	建築年度	延床面積（㎡）	階数	備考
―	W 造	2016	1,539.86	1 階	

2　個別施設の状態等

施設の劣化・損傷の状況や要因、過去の対応状況等
前林交流館は建築後３年程度と築年数が浅く、全体的に健全である。

3　対策内容と実施時期

（１）基本的な考え方
①安全・安心な施設管理、②トータルコストの縮減、③施設の有効活用の促進の３つを柱とした取組を総合的に推進し、将来の施設更新や維持管理に係るトータルコストの縮減・平準化を図る。
（２）取組方針
以下、取組として該当する項目にチェックを入れ、具体的な内容を明記する。
☑：１）点検の実施、施設の修繕・更新による安全性の確保
各種点検（日常点検、保守点検、法定点検等）の観察により、施設の劣化状況や修繕の緊急度を把握する。また、部位ごとの保全の考え方（予防保全、事後保全）、部位ごとの耐用年数に基づき、費用対効果を踏まえた上で修繕を実施することにより安全性を確保する。
☑：２）施設更新に伴う複合化・集約化、余剰空間の用途転用等による活用促進
今後の人口減少や少子高齢化の進展等による施設利用者の減少や利用ニーズの変化に対応していくため、必要に応じて統合（機能の集約化・複合化）や廃止を行い、総量抑制の取組みに努める。
☑：３）民間活力の導入による事業推進や運営改善

（現在の導入状況）
指定管理者業務の導入による運営品質の向上、コストの縮減を図っている。

（今後の考え）
引続き指定管理者業務の推進を行いコストの縮減を図っていく。

☑：４）施設の機能向上による利便性向上や、ランニングコストの縮減

設備の更新にあたっては、費用対効果を考慮した上で、既存設備よりもメンテナンス頻度の少ない設備やエネルギー消費量の少ない設備に更新を検討し、初期費用（イニシャルコスト）だけでなく維持管理等費用（ランニングコスト）を含めた総合的な費用であるライフサイクルコストの低減に努める。

（３）その他、対策を実施する際に考慮すべき事項

４　対策内容（計画期間内の保全、機能向上、建替え・増築 等）

※「年次計画表一覧」を参照。

【個別表】

21	施設名	益富交流館

1　施設の概要　（2019 年 3 月 31 日時点）

所在地	志賀町	延床面積	1,298.73 ㎡

建築物棟別

棟別名称	構造	建築年度	延床面積（㎡）	階数	備考
―	RC 造+S 造	1987	1,298.73	2 階	

2　個別施設の状態等

施設の劣化・損傷の状況や要因、過去の対応状況等
益富交流館は建築後３０年程度経過しており、ひび割れや汚れ等の経年による劣化現象がみられるが、屋上外壁について目視上は概ね健全な状態である。

3　対策内容と実施時期

（１）基本的な考え方
①安全・安心な施設管理、②トータルコストの縮減、③施設の有効活用の促進の３つを柱とした取組を総合的に推進し、将来の施設更新や維持管理に係るトータルコストの縮減・平準化を図る。
（２）取組方針
以下、取組として該当する項目にチェックを入れ、具体的な内容を明記する。
☑：１）点検の実施、施設の修繕・更新による安全性の確保
各種点検（日常点検、保守点検、法定点検等）の観察により、施設の劣化状況や修繕の緊急度を把握する。また、部位ごとの保全の考え方（予防保全、事後保全）、部位ごとの耐用年数に基づき、費用対効果を踏まえた上で修繕を実施することにより安全性を確保する。
☑：２）施設更新に伴う複合化・集約化、余剰空間の用途転用等による活用促進
今後の人口減少や少子高齢化の進展等による施設利用者の減少や利用ニーズの変化に対応していくため、必要に応じて統合（機能の集約化・複合化）や廃止を行い、総量抑制の取組みに努める。
☑：３）民間活力の導入による事業推進や運営改善

（現在の導入状況）
指定管理者業務の導入による運営品質の向上、コストの縮減を図っている。

（今後の考え）
引続き指定管理者業務の推進を行いコストの縮減を図っていく。

☑：４）施設の機能向上による利便性向上や、ランニングコストの縮減

設備の更新にあたっては、費用対効果を考慮した上で、既存設備よりもメンテナンス頻度の少ない設備やエネルギー消費量の少ない設備に更新を検討し、初期費用（イニシャルコスト）だけでなく維持管理等費用（ランニングコスト）を含めた総合的な費用であるライフサイクルコストの低減に努める。

（３）その他、対策を実施する際に考慮すべき事項

４　対策内容（計画期間内の保全、機能向上、建替え・増築 等）

※「年次計画表一覧」を参照。

【個別表】

22・23	施設名	美里交流館・駐車場

1　施設の概要　（2019 年 3 月 31 日時点）

所在地	美里	延床面積	1,499.99 ㎡

建築物棟別

棟別名称	構造	建築年度	延床面積（㎡）	階数	備考
交流館	RC 造（一部 S 造）	2005	1,499.99	2 階	
駐車場	S 造	2006	258.21	2 階	

2　個別施設の状態等

施設の劣化・損傷の状況や要因、過去の対応状況等
美里交流館は建築後１５年程度の施設であり、ひび割れや汚れ等の経年による劣化現象がみられる。屋上外壁について目視上は概ね健全な状態である。

3　対策内容と実施時期

（１）基本的な考え方
①安全・安心な施設管理、②トータルコストの縮減、③施設の有効活用の促進の３つを柱とした取組を総合的に推進し、将来の施設更新や維持管理に係るトータルコストの縮減・平準化を図る。
（２）取組方針
以下、取組として該当する項目にチェックを入れ、具体的な内容を明記する。
☑：１）点検の実施、施設の修繕・更新による安全性の確保
各種点検（日常点検、保守点検、法定点検等）の観察により、施設の劣化状況や修繕の緊急度を把握する。また、部位ごとの保全の考え方（予防保全、事後保全）、部位ごとの耐用年数に基づき、費用対効果を踏まえた上で修繕を実施することにより安全性を確保する。
☑：２）施設更新に伴う複合化・集約化、余剰空間の用途転用等による活用促進
今後の人口減少や少子高齢化の進展等による施設利用者の減少や利用ニーズの変化に対応していくため、必要に応じて統合（機能の集約化・複合化）や廃止を行い、総量抑制の取組みに努める。

☑：３）民間活力の導入による事業推進や運営改善

（現在の導入状況）
指定管理者業務の導入による運営品質の向上、コストの縮減を図っている。

（今後の考え）
引続き指定管理者業務の推進を行いコストの縮減を図っていく。

☑：４）施設の機能向上による利便性向上や、ランニングコストの縮減

設備の更新にあたっては、費用対効果を考慮した上で、既存設備よりもメンテナンス頻度の少ない設備やエネルギー消費量の少ない設備に更新を検討し、初期費用（イニシャルコスト）だけでなく維持管理等費用（ランニングコスト）を含めた総合的な費用であるライフサイクルコストの低減に努める。

（３）その他、対策を実施する際に考慮すべき事項

４　対策内容（計画期間内の保全、機能向上、建替え・増築 等）

※「年次計画表一覧」を参照。

【個別表】

24	施設名	竜神交流館

1　施設の概要　（2019 年 3 月 31 日時点）

所在地	竜神町	延床面積	1,793.38 ㎡

建築物棟別

棟別名称	構造	建築年度	延床面積（㎡）	階数	備考
―	RC 造	2001	1,793.38	２階	

2　個別施設の状態等

施設の劣化・損傷の状況や要因、過去の対応状況等
竜神交流館は建築後２０年程度経過しており、ひび割れ等の経年による劣化現象がみられるが、屋上外壁について目視上は概ね健全な状態である。

3　対策内容と実施時期

（１）基本的な考え方
①安全・安心な施設管理、②トータルコストの縮減、③施設の有効活用の促進の３つを柱とした取組を総合的に推進し、将来の施設更新や維持管理に係るトータルコストの縮減・平準化を図る。
（２）取組方針
以下、取組として該当する項目にチェックを入れ、具体的な内容を明記する。
☑：１）点検の実施、施設の修繕・更新による安全性の確保
各種点検（日常点検、保守点検、法定点検等）の観察により、施設の劣化状況や修繕の緊急度を把握する。また、部位ごとの保全の考え方（予防保全、事後保全）、部位ごとの耐用年数に基づき、費用対効果を踏まえた上で修繕を実施することにより安全性を確保する。
☑：２）施設更新に伴う複合化・集約化、余剰空間の用途転用等による活用促進
今後の人口減少や少子高齢化の進展等による施設利用者の減少や利用ニーズの変化に対応していくため、必要に応じて統合（機能の集約化・複合化）や廃止を行い、総量抑制の取組みに努める。
☑：３）民間活力の導入による事業推進や運営改善

（現在の導入状況）
指定管理者業務の導入による運営品質の向上、コストの縮減を図っている。

（今後の考え）
引続き指定管理者業務の推進を行いコストの縮減を図っていく。

☑：４）施設の機能向上による利便性向上や、ランニングコストの縮減

設備の更新にあたっては、費用対効果を考慮した上で、既存設備よりもメンテナンス頻度の少ない設備やエネルギー消費量の少ない設備に更新を検討し、初期費用（イニシャルコスト）だけでなく維持管理等費用（ランニングコスト）を含めた総合的な費用であるライフサイクルコストの低減に努める。

（３）その他、対策を実施する際に考慮すべき事項

４　対策内容（計画期間内の保全、機能向上、建替え・増築 等）

※「年次計画表一覧」を参照。

【個別表】

26	施設名	若林交流館

1　施設の概要　（2019 年 3 月 31 日時点）

所在地	若林東町	延床面積	1,295.25 ㎡

建築物棟別

棟別名称	構造	建築年度	延床面積（㎡）	階数	備考
―	RC 造	1999	1,295.25	２階	

2　個別施設の状態等

施設の劣化・損傷の状況や要因、過去の対応状況等
若林交流館は建築後２０年程度経過しており、ひび割れ等の経年による劣化現象がみられるが、屋上外壁について目視上は概ね健全な状態である。

3　対策内容と実施時期

（１）基本的な考え方
①安全・安心な施設管理、②トータルコストの縮減、③施設の有効活用の促進の３つを柱とした取組を総合的に推進し、将来の施設更新や維持管理に係るトータルコストの縮減・平準化を図る。
（２）取組方針
以下、取組として該当する項目にチェックを入れ、具体的な内容を明記する。
☑：１）点検の実施、施設の修繕・更新による安全性の確保
各種点検（日常点検、保守点検、法定点検等）の観察により、施設の劣化状況や修繕の緊急度を把握する。また、部位ごとの保全の考え方（予防保全、事後保全）、部位ごとの耐用年数に基づき、費用対効果を踏まえた上で修繕を実施することにより安全性を確保する。
☑：２）施設更新に伴う複合化・集約化、余剰空間の用途転用等による活用促進
今後の人口減少や少子高齢化の進展等による施設利用者の減少や利用ニーズの変化に対応していくため、必要に応じて統合（機能の集約化・複合化）や廃止を行い、総量抑制の取組みに努める。
☑：３）民間活力の導入による事業推進や運営改善

（現在の導入状況）
指定管理者業務の導入による運営品質の向上、コストの縮減を図っている。

（今後の考え）
引続き指定管理者業務の推進を行いコストの縮減を図っていく。

☑：４）施設の機能向上による利便性向上や、ランニングコストの縮減

設備の更新にあたっては、費用対効果を考慮した上で、既存設備よりもメンテナンス頻度の少ない設備やエネルギー消費量の少ない設備に更新を検討し、初期費用（イニシャルコスト）だけでなく維持管理等費用（ランニングコスト）を含めた総合的な費用であるライフサイクルコストの低減に努める。

（３）その他、対策を実施する際に考慮すべき事項

４　対策内容（計画期間内の保全、機能向上、建替え・増築 等）

※「年次計画表一覧」を参照。